

先輩教員の知恵

ネットで伝授



オンライン講座でパラスを演じる万太郎さん(右端)ら(4月、大阪市北区)＝前田尚紀撮影

教員がSNSやオンラインで学級作りや授業の方法を発信し、支え合う動きが進んでいる。新型コロナウイルスの感染防止をしながらの学校運営で研修もままならないことに、教員の年齢構成が若手とシニアに二極化していることが背景にある。

■ 悩みに答える

京都教育大学付属桃山小教諭の樋口万太郎さん(38)と、妻で大阪府内の公立小教諭、綾香さん(36)は、授業や学級作りの工夫をネットが発信している。

万太郎さんは、LINE(ライン)で約240人が進む。ペーパータイムに伴い、参加する教員の交流グループを主宰。別のSNSも使っている。別のSNSも使っている。別のSNSも使っている。

「若手に経験を伝える。すぐに助言できる場を作りたかった」と話す。綾香さんは、国語の授業の流れを黒板に記した「板書」の写真をインスタグラムで発信し、1万8000人のフォロワーを抱えている。

出版社「清風堂書店」(大阪市)が運営する「授業研究所」は、2人を含む教諭らに講師に教員向けオンライン

実演講座 ■ 授業の工夫投稿

TSENSEI ノートJで、響が多かった投稿テーマ

- 卒業式を行うか。行う場合のコロナ感染防止対策について(2020年2月)
- オンライン授業の方法。通信環境がない家庭への対応(20年4月)
- 文化祭、運動会を開催するか。行う場合の感染防止対策は(20年4、5月)
- SDGsをテーマにした授業について(21年3月)
- 高校の「総合的な探究の時間」について(21年3月)
- 宿題のチェックをどう効率化するか(21年5月)

*プロフィールのデータをもとに作成

オンライン講座を開催。キャンセル待ちも出るという。

■ 二極化

公立学校の教員は近年、若手と高年齢層の二極化が進む。ペーパータイムに伴い、参加する教員の交流グループを主宰。別のSNSも使っている。別のSNSも使っている。

■ 3万人が参加

教育関連企業も教員のオンライン交流に力を入れている。教員の働き方改革を支援するARROWS(アローズ)「(東京)の会員層が、前後の年代より少ない。コロナ禍で研修も減ったと学校名を公表して交流した。授業や学級運営などへ

「オライオン」による連携で、授業研究や指導力の向上は期待できる。だが、学校や子どもの状況は個々に違う。現場の課題を解決する

「ト」では、約3万人が実際に、ベテランと若手がうまくチームワークを取れるよう工夫する必要がある」

松浦善満・大阪千代田短

世代間で連携を

現場の課題解決

信がついてきた」と話す。

や指導のコツを実践し、自己紹介された授業法

だ。「紹介された授業法

が参考になるものも多い。

愛知県の公立小に今春、新卒採用された教諭(33)はこうしたサイトを頼りにしている。コロナ禍で他の教員の授業を見学する機会が少なく、気軽に相談できる先輩が校内にいないから

が高かった。

小学校のサイト「みんなの教育技術」には教員ら約50人が授業の工夫を投稿。接触なしでクラスを盛り上げるゲームなど、コロナ

コロナ医療福祉支援基金

郵便振替は001100・8・1274 85、加入者名・読売光と「愛の事業団」通信欄に必ず「コロナで」と記入。原簿11口版に掲載。匿名希望の方には、詳細に「匿名」とムページへ。